

令和二年度入学試験問題

国

語

(国語総合・現代文
B・古典B)

三問

令和二年二月二十五日

自 十二時三十分

至 十四時三十分

答案作成上の注意

- 一 この問題冊子には、国語総合、現代文B及び古典Bの問題があります。総ページは十六ページです。ただし、第七ページ、第十二ページは下書き用です。
- 二 解答用紙は一枚(表裏の二ページ)です。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。
- 三 受験番号は、解答用紙の所定の箇所に、必ず記入しなさい。
- 四 配付した解答用紙は、持ち出してはいけません。
- 五 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。
- 六 この問題冊子の裏表紙には、試験時間中に机の上に置いてよいものを記載しています。

第一問 次の文章は、現代医療において人の生や死がどう扱われているかを論じた文章の一部である。筆者は、この部分に先立

ち、現代医療では人を「死なさないベクトル」と「死なせるベクトル」の両方が一体となって存在していると述べている。以下は、それに続く部分である。これを読んで、後の問いに答えよ。

著作権の観点から、公表していません。

著作権の観点から、公表していません。

著作権の観点から、公表していません。

著作権の観点から、公表していません。

(安藤泰至「生命操作システムのなかの(いのち)——生の終わりをめぐる生命倫理問題を中心に」による)

注 QOL……クオリティ・オブ・ライフ。「生活の質」と訳されることが多いが、筆者はこの文章では「生命の質」という意味で用いている。

ALS(筋萎縮性側索硬化症)……身体を動かすための神経細胞や神経線維が徐々に壊れて命令を伝えることができなくなり、全身の筋肉がやせていく疾患。

問一 二重傍線部 a k e のカタカナを漢字で書け。

問二 傍線部①に「質が低い」というレッテルが貼られた「生」とある。筆者が、ただ「質が低い生」とせずに、「というレッテルが貼られた」という語句を挿入したのはどのような意図からか。説明せよ。

問三 傍線部②に「生の始まりと終わりをめぐる問題は驚くほど相似的なものである」とある。両者は、どういう点で相似的だといえるのか。本文中の語句を用いて説明せよ。

問四 傍線部③に「こうしたことから言えるのは、「尊厳死」という言葉が、なにか特定の行為(内容)を指すというよりは、ある種のイメージを伝える言葉であるということだ」とある。

1 「ある種のイメージ」とはどのようなイメージか。それを具体的に表す語句を本文中から二つ抜き出せ。

2 筆者は、「尊厳死」という言葉のイメージが、「オレゴン州尊厳死法」の成立にどう関わったと述べているのか。本文の内容に即して説明せよ。

問五 傍線部④に「いかにしたら「尊厳ある生」を守り、支えることができるのか問う前に、「死なせる」によって尊厳が守られる、という安易な対処がいかに危険であるか」とある。筆者は何を「危険」視しているのか。説明せよ。

問六 傍線部⑤に「人工呼吸器の装着は悪い意味での「延命治療」として、忌避する選択肢になつてしまう」とある。これはどういうことか。「悪い意味での「延命治療」とは何かを明確にして説明せよ。

問七 筆者によると、「尊厳死」や「延命治療」という言葉は、現代医療においてどのように作用しているか。本文全体をふまえて百字以内で説明せよ(句読点を含む)。

15 10 5

5

10

15

20

25

30

下書き用（解答は、別紙の解答用紙に書くこと。ここに書いたものは、採点の対象にならない。）

第二問

次の文章は、『曾我物語』の一節である。曾我十郎と五郎の兄弟は、父の敵・工藤祐経を追って、鎌倉から宇都宮に入った。曾我兄弟は、源頼朝と行動を共にしている工藤祐経をねらうものの、警護が固く、敵討ちの機会が無い。頼朝の宇都宮逗留は、三日目に入った。これを読んで、後の問いに答えよ。

著作権の観点から、公表していません。

著作権の観点から、公表していません。

(『曾我物語』による)

注 瓶子……酒を入れて杯に注ぐ器具。とっくり。

提……つると注ぎ口のついた金属製の小型の器。

なさぬ仲……ここでは、義理の親子の間柄。

未摘花……紅花（へにはな）の別名。古名。

問一 二重傍線部①③の「せ」について、それぞれ文法的に説明せよ。

例 存続の助動詞「たり」の連体形活用語尾

問二 傍線部ア「妾に過ぎたる者よもあらじ」、イ「由なき事を思ひけり」、ウ「過ぎ行き侍へ」、エ「いとほしき御事にこそ侍へ」を、現代語訳せよ。

問三 波線部aに「語りけるは」とある。

1 誰が語ったのか。本文中の漢字二字の一語で答えよ。

2 この発話の終わりはどこか。最後の五文字を抜き出せ(句読点を含む)。

問四 空欄あに入る最も適切な語を次のa～eから選び、記号で答えよ。

a さりながら b さすれば c さほどには d さればこそ e さはいへど

問五 AとBの歌について、次の問いに答えよ。

1 Aの歌は、何を嘆いているのか。簡潔に答えよ。

2 Bの歌の「雨の露のなければ」を、「雨の露」が何を指しているかを明らかにして、現代語訳せよ。

問六 CとFの歌には、すべて「色」が用いられている。

1 CとFの歌で、「色」となつてあらわれるのは何か。本文中のもっとも適切な一語で答えよ。

2 Dの歌を本文から取り出すと、「しのぶれど色に出でにけりわが恋はものや思ふと人の問ふまで」〔拾遺集〕恋一、平兼盛をふまえた恋の歌として解釈できる。その場合のDの歌の現代語訳を書け。

問七 波線部bに「兄弟も共に涙ぐみてぞ見えける」とある。兄弟は、なぜ泣いたのか。簡潔に答えよ。

問八 宿の女房は、十郎と五郎にどうするように勤めているか。本文全体をふまえ、三十字以内で答えよ(句読点を含む)。

このページは白紙です。

第三問

(A)は『三国志』蜀書・先主伝、(B)はその裴松之注に引く『九州春秋』の文章、(C)は清・宋琬そうゑんの「舟中見獵犬、有感(舟中に獵犬を見て、感有り)」という詩である。よく読んで、後の問いに答えよ(設問の都合で返り点、送り仮名を省いたところがある)。

(A)

著作権の観点から、公表していません。

(B)

著作権の観点から、公表していません。

著作権の観点から、公表していません。

注 曹公：曹操。後漢の政治家、文人。三国魏の基礎を築いた。 紹：袁紹。曹操のライバル。

先主：劉備。後に三国蜀を建てる。 糜竺・孫乾：いずれも劉備の臣。

劉表：後漢末、荊州（今の湖北省、湖南省周辺）に割拠した人物。 相聞：連絡を取り合う。

新野：県名。今の河南省南陽市。 坐：宴席。 體：内もも。 馳：はしる。 秋水：水かさが増した秋の川。

蘆花：アシの穂。 檣：帆柱。 也：讓歩を表す副詞。

問一 二重傍線部 a「南」・ b「益」・ c「嘗」・ d「是以」・ e「耳」は、それぞれ文中でどのように読むか。その読み方を送り仮名も含めてすべて平仮名で記せ（現代仮名づかいでもよい）。

問二 傍線部①「表疑其心」とあるが、劉表はなぜ劉備の心を疑ったのか、その理由を説明せよ。

問三 傍線部②「表怪問備」について、劉表は劉備のどのような様子を見て、どのようなことを問うたのか。簡潔に説明せよ。

問四 傍線部③「日月若馳、老将至矣」を、(1)すべて平仮名で書き下し(現代仮名づかいでもよい)、(2)平易な日本語に訳せ。

問五 (C)の第一句の括弧内に当てはまる語として最も適切なものを、次のア～オの中から選んで記号で答えよ。

ア 透 イ 雲 ウ 白 エ 月 オ 明

問六 (C)の第二句「難同鷹隼共功名」について、猟犬が鷹隼と功名を共有することが難しいのはなぜか。次のア～オの中から最も適切なものを選んで記号で答えよ。

ア 猟犬は老いてしまい、鷹隼のようにすばやく動くことができなくなったから。

イ 猟犬は太ってしまい、鷹隼のように自在に動くことができなくなったから。

ウ 猟犬は水に囲まれた舟に乗っていて、空を飛ぶ鷹隼のように活躍できないから。

エ 猟犬は悪賢い手段で獲物を捕らえる鷹隼と行動を共にすることを潔しとしないから。

オ 猟犬は大地を駆け回らない鷹隼には自分の志を理解できないだろうと考えたから。

問七 (C)の第四句「也似英雄牌肉生」を(B)の内容を踏まえつつ、平易な日本語に訳せ。

試験時間中に机の上に置いてよいもの

- 本学受験票
- 大学入試センター試験受験票
- 配付した問題冊子等
- 黒鉛筆（和歌、格言等が印刷されているものは不可）
- 鉛筆キャップ
- シャープペンシル
- 消しゴム
- 鉛筆削り（電動式、大型のもの、ナイフ類は不可）
- 定規
- コンパス
- 時計（辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの、秒針音のするもの、キッチンタイマー、大型のものは不可）
- 眼鏡
- ハンカチ
- 目薬
- ティッシュペーパー（袋又は箱から中身だけ取り出したもの）